

『タイトル募集中!』

NUMAZU CITY HOSPITAL NEWSLETTER

沼津市立病院広報誌
2017. 1
創刊準備号 VOL.0



トピックス

沼津市立病院 これまでの歩み

広報誌発行にあたって



このたび、沼津市立病院のことをみなさまにもっと知ってもらいたい、という思いから、広報誌を発行することといたしました。

今回は「創刊準備号」として、開院から現在までの歩みをご紹介しましたが、今後は、4月に「創刊号」を発行し、各号で診療科や部署等をインタビュー形式の記事で紹介していくとともに、健康レシピやイベントの情報などを発信していく予定です。このほか、みなさまからの「こんな記事を掲載してほしい」という声を積極的に取り入れ、みなさまのお役に立つ広報誌を作っていきたいと考えていますので、ぜひみなさまの声をお寄せください。

病院長 後藤 信昭



沼津市立病院

【基本理念】

市民のために 共に歩む病院

診察受付時間 平日：午前7:45～12:00

休診日 土・日・祝・年末年始（12/29～1/3）

（診療科）

内科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、リウマチ膠原病科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、小児外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科（頭頸部外科）、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、救急科、歯科口腔外科

〒410-0302

Tel：055-924-5100

沼津市東椎路字春ノ木550

<http://www.numazu-hospital.shizuoka.jp>

沼津市立病院



これまでの歩み

草創期

沼津市立病院の歴史は、明治二年まで遡ります。沼津兵学校の附属医療機関・沼津陸軍医学所が沼津病院と改称され、当時の我が国の最高水準を誇る医師十一名により、診療を開始しました。明治五年には、名称を「駿東病院」に改称し、文字どおり県東部の地域医療の中枢となり



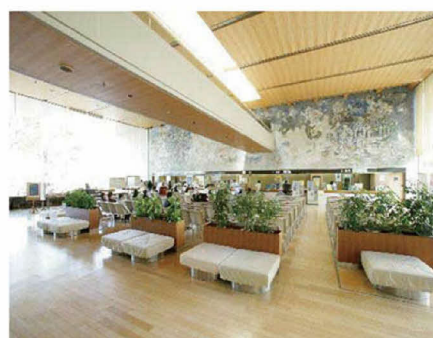
■西条町にあった駿東病院



■市立伝染病院（現在の市立病院の前身）

沼津市立病院の誕生

昭和三年、現在の本田町に「沼津市立伝染病院」が設立されました。しかし、各地区単位で隔離病舎を設置し、それを維持していくことは困難であり、県からも「統合して組合立にした方がよい」との指示を受け、昭和七年、「沼津組合病院」となりました。



■移転後の待合ホール

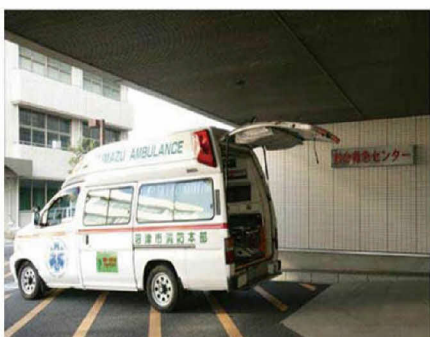
和三十五年には第二期改修工事が完了しました（診療科十科、二百七十六床）。昭和五十二年に田町分院を廃止し、昭和五十六年、沼津市基本計画により、東椎路への全面移転・新築が決定されました。

東椎路への移転 現在の市立病院へ

昭和五十八年には、新病院建設マスタープランが策定され、昭和六十一年に建築工事に着工、二年後の昭和六十三年三月に工事竣工、同年七月には、新病院での診療を開始しました。



■三枚橋にあった市立病院



■平成16年救命救急センター開設

鉄筋コンクリート造、地上七階、塔屋二階の新しい市立病院は、医療環境の整備に重点をおいて設計され、入院患者の生活空間やゆったりとした玄関ロビー、緑豊かな散策コースを作るなど、従来の病院建築にはみられない、「病院らしくない病院」として生まれ変わりました。

平成元年には、使用病床数を五百床とし、以降、様々な設備を充実させてきました。平成十六年には院内併設型三次救命救急センターを開設、平成十九年にはドクターヘリのヘリポートが完成し、この地域の救急医療の最後の砦としての役割を果たしています。

そのほかにも、平成八年に災害拠点病院、平成十年に地域周産期母子医療センター、平成十六年に基幹型臨床研修病院、平成十九年に地域がん診療連携拠点病院、平成二十年にDPC認定病院、地域医療支援病院を取得するなど、駿東地方二次医療圏で唯一の自治体病院として、中心的役割を担っています。そのような中、平成二十五年には心臓血管外科を開設し、心臓や大血管の手術が可能となったことは、当院の新たな一歩となりました。

市民のために 共に歩む病院として

現在、当院は四百二十六床、二十四科で運営しています。今後も、地域の様々なニーズに添えていけるよう、職員一同努力を続け、基本理念で掲げている「市民のために 共に歩む病院」として、さらなる発展を目指していきます。